

平成20年度 三重県教育改革推進会議

第5回 小中学校適正規模のあり方部会【議事録兼概要】

I 日時 平成20年4月8日（火） 14:00～16:30

II 場所 三重県水産会館 研修室

III 出席者 【委員】上島 和久、田尾 友児、山田 康彦、
小川 幸弘、加納 圭子、野中 良成、草薙 明
【事務局】鎌田 敏明、真伏 利典、浅原 俊昭、鈴木 巧、大塚 晃、松田 克己、
西山 嘉一、増田 元彦、鈴木 繁美
中谷 文弘、北原 まり子、中原 博、安田政与志

以上20名敬称略

IV 内容

1 報告

(1) 第4回小中学校適正規模のあり方部会における意見抜粋・・・資料1に基づき、中谷室長から報告

【部会長】

審議に入る前に、この部会の今後の予定を確認したい。本日みなさんにご意見をいただいて報告をまとめたい。最終的にまとめることで、この部会での調査審議は終了し、5月9日の推進会議で提案する。各市町で小中学校のあり方について検討しているところもあるが、進んでいないところもある。県としての一つの方向性を示したい。そういう性格をご理解の上で、議論していただきたい。

2 審議事項

(1) 部会報告(案)について・・・別冊資料の基づき、中谷室長から説明

《以下意見交換》

【部会長】

それぞれの部分に分けて検討し、確認していただきたい、まず「はじめに」の部分でお気づきの点はありますか。

無いようでしたら、次に「I 教育の現状と課題」について、ご意見ございますか。

【鎌田副教育長】

2ページ下から5行目に「現在」とあるが、この数値は18年度時点のものであるので、表記を「18年度現在」と変更したい。

【部会長】

他に無いようでしたら、次に「II 地域と学校との関わり」について、ご意見ございますか。

【委員】

9 ページ 1 行目にコミュニティ・スクールとあり、脚注に（学校運営協議会）とあるが、12 ページ下、「2 市町の学校適正規模化に向けた取組課題」の 7 行目には、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）とあり、表記が違う。

【部会長】

文科省で議論される時は、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」と使われるのであれば、それで統一したい。

それでは「Ⅲ 小中学校の望ましい学習環境」について、お気づきの点はありませんか。

【委員】

10 ページの脚注番号 13 は、前ページの番号と重なっている。

【部会長】

10 ページ脚注は 14 に変更する。

それでは「Ⅳ 小中学校の望ましい学校規模」に移りたい。繊細な部分なので、それぞれの部分に分けて確認していきたい。まず「1 本県における学校適正規模の考え方」と「2 市町の学校適正規模化に向けた取組課題」について、いかがですか。

【委員】

「1 本県における学校適正規模の考え方」の 3 段落目、「統合による課題」とあるが、資料を見ないと分からない。「校区が拡大すると、どうしても学校への関心が弱くなってしまふ」というように、もう少し具体的に記述した方が、分かりやすいと思う。

【部会長】

事務局として「統合による課題」のところで意識してきた点は、今の指摘で良いか。聞き取り調査や訪問調査で、「統合すると学校が地域から離れてしまう」ということが指摘されていた。それで「改めて地域づくりと学校ということを課題としなければならない」ということが全体のトーンになっていると思う。

【事務局】

そのとおりである。

【部会長】

大きい修正でなければ、事務局と私の方に一任していただきたい。この部分についても、記述の工夫をしたい。

【鎌田副教育長】

12 ページの最後の数行に「県が市町教育委員会にできるだけ支援をしたい」というスタンスで書いてあるが、具体的な財政的支援はできない。統合する学校については、統合の前年から翌年まで教員を若干配当する位しかできない。それをご理解していただいた上で、こういう記述で良いのか、検討していただきたい。他にどのような支援をしたら良いのか、聞かせていただきたい。

【部会長】

統合するときの加配は、県費でおこなわれているのか。

【鎌田副教育長】

そうである。

【委員】

具体的なものでなくても、国や県としての支援体制の大筋の文面があるか無いかは、市町にとって大きな違いである。

【委員】

実際に統廃合を進めていると、少人数の学校の保護者は気軽に相談できるスクールカウンセラーの配置を多くの人が望んでいた。具体的な記述を入れることができるなら、加えて欲しい。

【部会長】

ここの文面で具体的に書きにくいので、参考資料に付け加えられるように工夫したい。それでは「3 小中学校の適正規模」について、いかがですか。

【委員】

小学校と中学校の規模の違い、国の基準との違いについて、もう少し明確に理由を示すことが必要ではないか。

【部会長】

中学校の場合、専門の教科の教員が配置できるのが最低の基準として考えると9学級になる。③の記述に、文言を付け加えるとより分かりやすくなる。

【委員】

「先生が揃うからこれが適正規模である」と考えるのはおかしいと思う。先生の数については、子どもたちのことを考えて、行政に考えて欲しい。中学校は校区が広くなり人数も増え、もっと幅広く友達を作れるよう、クラスが多く替えられる方が良いという理由で考えた。

【部会長】

中学生が育っていくのに、人間関係等、小学校よりもう少し規模が大きい方が適切であるという観点を、①の中にもう少し付け加えたい。

【鎌田副教育長】

13ページの全体の記載が、何学級以上あったらいいかという議論を中心に書いてある。18学級以上についての根拠は全くなく、なかなか書きにくい。適正規模の数値の背景になるのが、2の①から⑤だと理解して欲しい。ここにある漠然とした書き方から、委員会ではこのような結論を得たという言い方しかできないと思う。小学校より中学校は大きな方が良く、それが中学校の規模を9にした理由である。

【委員】

国が法令で示している適正規模があるのに、なぜ三重県が中学校で基準を変えたのか、理由付けがあればそれで良いと思う。

10ページ「Ⅲ 小中学校の望ましい学習環境」の「1 小規模校・複式学級・複式学級指導の課題」とあるが、大きな学校の課題が示されていない。小規模校の統廃合を誘導している答申のように感じる。名張市でも検討委員会をしているが、「小規模校のデメリットばかりを強調し、統廃合をしようとしているように見える。」と保護者・地域で指摘された。適正規模というものを検討しているのだから、大規模校の問題や今後の方向についても、明確に分かる記述も必要ではないか。11ページに大規模校の問題についての記述を加えてはどうか。

【部会長】

この部会では小規模校を中心に議論してきて、大規模校の問題については議論が不足しているし、記述もない。事務局で大規模校の資料があれば、配布して欲しい。

配付資料に基づき、中原主幹から説明

【部会長】

国での議論や他の自治体での議論に目を配ると、3つの課題を指摘している。①個々の児童生徒に目が行き届かない。②先生の数が多すぎて意思疎通に欠ける。学校運営の共通理解に欠ける。③施設利用で制限が出てくる。このような記述を踏まえて、11ページに追加してはどうか。

【委員】

上限については議論を一度もしたことがなく、今ここで資料を見せてもらって気が引けるところが大きいのが、記述を載せた方が良いのかと思う。案の文章は管理面に偏りすぎて、子どものことが前面に出ていない。子どもがデメリットを被ることを全面に表記して欲しい。

【委員】

全く話が出なかったわけではなく、「下限ばかり話しているが、上限はどうなんだ」という意見が出た。

【委員】

議論をしたという記憶がない無い。

【委員】

実際に三重県の状況の中で、18学級以上の学校があるという話も聞かせてもらって、自分自身はあまり現実的ではないと思っていたが、「必要だから上限を設定すべきである」という議論があった。それ以上深められず、そこまで終わってしまった。

【部会長】

議論する中で、「団地を抱えると突然子どもの数が増え、また長期的には減っていく。非常に判断が難しいので、長期的な見通しの中で考えるのが必要ではないか。」ということを経験した覚えがある。ここでの議論も加え、今回紹介していただいた議論と、子どもの視点からの文言を加えたい。作った上でみなさんに一度確認していただきたいと思う。

【委員】

三重県が9学級と設定したのは、国の示している12学級に対し本県では54.1%が下回っており、あまりにも現実とかけ離れている。また適正規模設定の観点から、9学級でも十分適正規模と見なされると説明できると思う。18学級以上になると目配りが効かず、学校が荒れ、いじめ等も増えるのではないかと思う。18学級以下が望ましいのではないかと思う。

【部会長】

前回の議論も、上限の基準は入れるべきであるという意見であった。

【委員】

適正規模設定の観点の中に、「国は12学級であるが、三重県の実態はそこまで行ってないから、実態を踏まえた中で9学級にした」ことをどこかに入れておいてもらった方が分かりやすいと思う。

12ページの「本県における学校適正規模の考え方」にも学校訪問調査を全面的に出しているが、訪問調査自体小さなところしか行ってない。統計や資料にそればかりを挙げておくと、広く捉えた時に偏りがあるという指摘もされる。うまく表現をする方が、誤解されなくてすむと思う。

【部会長】

その記述については、検討させていただく。

【副教育長】

3ページの「小中学校の現状」の文章に、18学級以上の学校の現状など、分析が全く入っていないので、その辺を加筆したい。先ほど配布した文部科学省の資料については使用せず、四日市や伊賀の資料を参考に、子どもの視点に立った大規模校の問題点をまとめたいと思う。

【委員】

この報告書でも、課題の最初に少子化を取り上げている。課題意識でこの会議は始まっていると思う。上限にかかわる部分の記述はあった方がよいと思うが、この部会としては少子化・小規模校の現状が課題意識の中心だったので、議論の中心はそこに終始した。その結果の報告書と考えたらよいと思う。

【部会長】

全県的な視野から見れば、少子化・小規模校の方が大きな課題になっている。「はじめに」のところの全体のスタンスを入れておく必要があるかもしれない。工夫をしたい。

次に「4 統合しても適正規模にならない場合の取組」について、いかがですか。

【委員】

14ページ「(1) 適正規模を下回る場合の取組」の5行目と、15ページの(2)の3行目に「積極的な」とあるが、それだけが一人歩きしてしまうと、複式の学校は積極的に統合を進めよというように捉えられてしまう。ここの表記は柔らかくならないか。

【委員】

本当に積極的に進めた方が良い学校と、頑張ったけれどこれ以上無理な学校と、地域性であると思う。一方的に「積極的に」という方向になると、厳しいところが出てくると思う。

【部会長】

趣旨としては、「積極的な」という言葉を削除する方向でいきたい。

【委員】

14ページ「(1) 適正規模を下回る場合の取組」の3行目に、「複式学級の解消等が推進されるよう」とあるが、この文言も「解消」を「検討」に柔らかくならないか。

【部会長】

15ページの留意事項についても、いかがですか。

【委員】

(5)の最初に「子どもたちにとって望ましい教育環境」とあるが、④の校地・校舎等の有効利用や⑤の県や国からの支援の活用が、どう子どもたちの教育環境の向上・改善に関係してくるのか、具体的な中身を教えて欲しい。

【事務局】

④については、統合等によって残った校地・校舎は、地域のコミュニティハウス等、地域の施設として残すことが求められている。それはその地域の子どもたちも利用する。本来学校でなくても、地域の子どもたちが利用して活動できる施設になっていくと良い。⑤については、スクールバスの問題や移行期での加配の問題など、子どもの教育環境の支援に直結する。

【鎌田副教育長】

④については、統合のことばかりでなく、統合後のことも先に検討して欲しいという意味である。

【委員】

④と⑤については、確かに分かりづらい。

【部会長】

統合後の教育環境や地域環境づくりを見通して、下記のような形で進めるという意味である。

【委員】

(5)から削除するか、(6)を新たに作る方が良い。

【部会長】

⑤については「子どもたちの教育環境の整備のために」という部分を加えれば、つながると思う。一番直結しないのが④である。④については削除してはどうか。入れられるところがあれば、入れたい。

【委員】

④は「子どもたちのために、学習の場や遊び場になる」というような表現であれば、分かりやすい。

【部会長】

「子どもたちにも今後も活用されるような形で」という文言を入れてはどうか。

【鎌田副教育長】

具体的に書いてしまうと、市町に負担をかける。敢えて書かない方が良いのではないかな。

【部会長】

では④は削除する。

【委員】

市の立場としては、県や国からの支援についての記述があるのはありがたい。「検討」とまでいうのは県も辛い部分があると思うので、表記の仕方を変えて、(5)からは外した方が良いと思う。

【委員】

建物の問題は大きい。本文の上から8行目「下記事項に留意し、」の部分に、校地・校舎等の有効利用の文言を入れて欲しい。維持管理だけでも大変である。

【委員】

何もないより、どこかに入れておいた方が良い。入れ方が問題である。④と⑤については考えて欲しい。

【部会長】

④については、どこかに入れる。⑤については、本文の中に生かしていきたい。

【委員】

統合で空いた学校も、子どもたちが小さいスポーツクラブで活用したり、地域の人と交流したり、地域の運動会をしたりする場になっている。体育館やグラウンドは活用している。統合に向けた取組には、抜きにしては考えられない。生徒数の増で移転したことで空いた学校も、維持管理費はかかるが、地域の人に開放している。そういうことは付いてくる。

【部会長】

この報告全体が、「統合しても新しい地域づくりを進めながら、地域の学校を大事にしていく」というスタンスである。新しい学校づくりの一貫にも今の話が入ってくる。そういう文面の中に入れ込むことができる。検討させていただく。

【委員】

留意事項の囲みの中からは、④と⑤は外しておいた方が良いと思う。

【委員】

14ページ(3)の「1学級あたりの最小限の児童生徒数設定の観点」は、聞き取り調査からのものしか挙げられないのか。

【部会長】

あまり取り組んでいる学校がないので、どうしても聞き取り調査を踏まえないといけない。

【委員】

だから小学校としての観点になるのか。

【部会長】

全市町教育委員会教育長への聞き取り調査では、中学校のことも念頭に置いている。

【委員】

部活動とか、生徒会自治とか入れて欲しい。

【部会長】

②の集団活動の中に、入れるよう検討する。

【鎌田副教育長】

14ページ(3)で「学校訪問における聞き取り調査(資料1)」「全市町教育委員会教育長への聞き取り調査の結果(資料2)」とあるが、12ページには「学校訪問調査」とある。表記を統一したい。

【委員】

前回欠席したが、中学校でも20～25人程度となっているが、これは十分議論されたのか。20ページの表からは、中学校では25～30人が多いと思う。この表を入れるのが良いのかと思う。

【部会長】

20～25人で過半数以上の教育長さんからご指摘がある。少し幅を持たせて、最低これぐらいあった方が良くという結論になった。

今日課題になったことを踏まえて、もう一度加筆修正して、それを委員のみなさんに内容を確認していただく作業をさせていただいて、それを踏まえて推進会議に出したい。それでは、今日はここまでとさせていただきます。

(2) その他

本部会は本日をもって終了となる。推進会議の委員の6名の方は2年の任期となっておりますので、引き続きご協力よろしく申し上げます。最後鎌田副教育長から一言お礼申し上げます。

【鎌田副教育長】

委員のみなさんには大変お世話をお掛けいたしました。5回の議論を重ねていただき、一つの目処を出していただきましたこと、大変ありがたいことだと思っています。改めてまた委員をお願いすることもあるかと思っています。その時にご協力いただきたいと思います。

以 上